

福井県屋外広告物審議会 会議録

【第1回】

日 時 平成26年5月29日（木） 13:30～15:00

場 所 福井県庁2階 中会議室

■ 日時、場所

- ・平成26年5月29日（木） 13:30～15:00
- ・福井県庁 2階 中会議室

■ 出席委員

- ・野嶋会長、内村委員、水上委員、原田委員、塩出委員、木下委員、梅田委員、宮崎委員、金井委員、中屋委員

■ 主な意見・指摘

<屋外広告物の規制見直しについて>

○ 事務局からの説明

- ・規制見直しの基本方針を説明

○ 審議会委員の意見・指摘

【委員】

- ・屋外広告物の規制を見直すことについて方針は良いと思うが、既存不適格となる広告物に関しては、経過措置期間を設けるとともに、新たな許可基準に合わせるための撤去や改修費用について補助制度を創設するなど対策を考える必要がある。
- ・屋外広告物は道案内としての役割を担う面もあるため、屋外広告物の規制を強化する一方で行政がわかりやすい案内看板を統一的に設置するなど県民に影響が出ないように配慮すべきである。
- ・屋外広告物の高さや面積だけでなく、色彩も景観に大きな影響を与える要素であるため、地域にふさわしい色彩の制限についても検討が必要である。

【委員】

- ・野立看板が乱立している状況などを考えると、屋外広告物の規制を強化することはやむを得ないと考えている。
- ・景観を最も阻害しているのは、道路沿いや田園地域に設置されている野立看板と考えている。
- ・自家用広告物の規制を強化しなくても、交差点付近や道路沿いの野立看板は目立つことを目的として設置されているため、これに対する規制を強化すれば福井の景観は大幅に改善されると思う。
- ・野立看板の規制を強化するのは良いことだと思っているので、野立看板と自家用広告物の規制は分けて考える必要がある。
- ・最近では県外企業が出店する場合、県外の屋外広告業者と契約するところが多いため、自家用広告物も県外の屋外広告業者が請け負うことが多くなり、福井県の屋外広告業者の仕事が減っている。
- ・規制強化の検討を進めるに当たり、地元の屋外広告業者への影響を十分に考慮して欲しい。

【委員】

- ・ 県民アンケートの結果を見ると、県民の意識としては、自然景観や歴史景観をまず最優先に守るべきだという印象を受ける。
- ・ 自然や歴史景観の保全が重要であり、広告物の設置は最小限にすべきである。
- ・ 県都デザインの区域を景観として見ると、足羽山や足羽川をはじめとした自然景観や歴史景観、商業地などの都市景観が混在しており、都市景観の部分については屋外広告物を規制するというよりは、まちの魅力を高めるため、優良なデザインに誘導することが重要である。

【委員】

- ・ 実際に屋外広告物を設置するときには、広告主の意向で大きく色彩やデザインが左右される。
- ・ 景観について配慮やモラルがない広告主が多いことも事実なので、規制を強化するに当たり、広告主への周知を徹底すべきである。

【委員】

- ・ 県内には自然景観や歴史景観、沿道景観や都市景観など様々な地域景観があるため、数値的に基準化して規制を強化していくべき地域と都市景観などのように広告物のデザインを誘導していくべき地域を分けて検討を進めることも必要かもしれない。